

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 2月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500131		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい八本松		
所在地	広島県東広島市八本松東5丁目8番34号 (電話) 082-427-3339		
自己評価作成日	令和5年1月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500131-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年1月31日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

法人内で設けているHLC制度又、OJT制度を活用しケアを行っている。ご利用者一人ひとりに変化があった際にすぐに反映を行っている。また変化がなくても各担当者が毎月見直しを行い、その方に合ったケアを統一して行っている。
定期的に行事も行っており、ご利用者に非日常の生活をして頂いている。平時であれば地域住民の方を招いて行事を行うこともあり、地域住民の方との交流も定着しつつある。
長年ご利用頂いている方がいらっしゃることもあるが、ご家族との関係も良好に思える。何気ない会話はもちろんだが、要望等がある場合も気軽にお話ができおり、穏やかな雰囲気を保っていると感じる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

毎年度、目標を掲げ、法人内の研修体制の充実やホームが目指すべき理念及び方針を明確化し、地域ニーズも取り入れた運営方針としている。研修体制の充実により職員の介護技術の向上や利用者一人ひとりのライフストーリーシートを活用し、利用者個々のケアの統一を図っている。最近の特徴的な取り組みとして、コロナ禍で外出が難しいため、季節を感じて頂く取り組みとして、鍋料理、焼き芋を焼いたり、夏祭り、カフェや屋外でテーブルを囲んで、食を楽しんでいく。年2～3回のユニットリーダーによる職員にアンケートを実施し、利用者支援の充実を行うことで、サービス向上に活かしていくよう工夫している。実習生の受け入れを積極的に行い、将来介護の仕事に興味をもってもらえるよう尽力している。利用者・家族の希望や思いが叶うように、3K（感謝・感動・幸福）を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	当法人の理念のもと、事業所の年間方針を立てている。各職員は理念・年間方針に沿った個人目標を毎年立て、実践できるよう努め、目標に対しての面談も適宜行っている。	法人理念をもとに事業所方針を明確にし、年間目標を掲げ取り組んでいる。例えば『面会制限下での寂しさの緩和』を目標に、職員個々に個人目標を3個掲げ、意識を持って達成に向けて取り組んでいる。目標に対しての面談を年3回行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症の影響で利用者や地域の交流は行えていない。自治会には加入しており管理者が地域の清掃活動や自治会の総会に出席している。	昨年度に引き続き今年度も自治会班長を担い、ごみ回収、清掃活動、総会に出席など積極的に交流を持ち、地域住民の一員として参加している。自治会長の訪問があり、地域で困りごとの介護相談など行い、系列事業所への紹介に繋がったケースがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	主体的な活動は行えていないが、自治会の活動等で地域の方と交流を持った際に、認知症のお話や、当事業所にどのような方が入居できて、どういった生活を送っているか等のお話をする機会はある。今後も積極的に交流を持ち、気軽にご相談頂ける環境を作りたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	当事業所でのサービス内容等の報告を行い、それを元に、参加者の方々と話し合いをさせて頂いている。ここ数年はコロナウイルスの影響で書面送付での書面会議としている。	現状下では当会議を書面にて行っている。本来の会議では、自治会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員又は介護保険課担当者など多職種が参加している。参加メンバーからの意見を抽出できるように書面を送付し、運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	書類手続き等で定期的に市の窓口に出向いたり、電話や書類にて連絡相談、報告をさせて頂いたりしながら、協力体制の向上に努めている。	市の介護保険課担当者とは、事故報告書の提出、介護保険の手続きなど行っている。運営状況により電話や直接窓口に出向き、報告や情報交換などで連携し、協力関係を構築している。市主催の研修案内もあり、研修にオンラインで参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化の為、指針を立て、各職員が内容を把握し、身体拘束予防に努めている。3か月に1回委員会での話し合いを行い、年2回の研修を実施している。	入職時の研修や年2回の研修を通して、身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。年4回の委員会を開催し、振り返りを行い職員全員に周知し、利用者に寄り添うことにより、スピーチロックを含めた身体拘束の無いケアを日々実践している。マニュアル整備やアンケートを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	上記同様、委員会を開いており、委員会ではスピーチロック等にも留意するよう議題に挙げ、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業、成年後見制度について知識が十分でないところもあるが、個々のケースに応じて必要があれば、管理者を中心とし、検討を行っている。現時点でも後見人制度をご利用の方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明の場を設け、質問があればお答えをし、同意をその都度得ている。その場で返答が難しいものであれば、他部署と連絡を取り合っ、迅速にお答えできるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。また、ご家族の方が面会に来られた際も積極的に声をかけ、お話をさせて頂いており、ご利用者に対してこうして欲しい等、ご意見を頂くこともある。	月1回の便りに、行事の写真、利用者の様子や手紙など送付している。例えば、家族から『歩き方が難しそう』との意見から靴の変更、爪や皮膚が傷つかないように皮膚科への往診へ繋がったケースもある。要望については、申し送りノートで共有し、迅速に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所規模が小さく特にミーティングの機会は設けていないが、適宜の意見交換を行い提案、疑問に対応している。迅速に対応できる案件はその場で行うことも多いが、難しい案件に関しては、アンケートを配布し、職員全員の意見を確認して運営に反映するよう努めている。	年3回の個人面談、年2～3回のアンケートを実施し、意見や提案が出やすくしている。法人から『生活を良くするために落ち着ける空間づくり』と題して、屋外に雨除け用のルーフを付けることにより、花壇の花を眺める、面会時に雨がしのげるなどの効果から今年度はアイデア賞を頂いた経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回、各職員が自ら目指す目標を立て、その目標に沿って業務を遂行できるよう促しを行っている。その目標の成果や実績を達成度で評価し、各個人の評価を決定している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日頃の業務の遂行状況を確認し、職員一人ひとりを評価している。補足が必要な業務や、伸ばしてもらいたいものに関して、必要に応じて各職員と話し合いながら、研修に参加できる体制を取っている。又、力量を把握したうえで、業務の割り振りも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他の事業所とは会議や研修等で情報交換や交流を行っている。他法人については電話でのやりとりが多いが、空室状況の確認や、資料送付が主な内容となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時や面会時には、ケアマネや、ご家族より詳しい情報を頂き、各ご利用者ごとに担当を決め、ご本人との関わりを深く持つことで信頼関係を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>管理者又、担当者を中心に窓口となり、ご家族が少しでも困っていること、不安に思っていることを解消して頂けるよう努めている。契約時や面会時にご家族の声を聞く姿勢を適宜取っている。何気ない話も大切にし、お互い話やすい環境になるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>契約前の事前面談等を含め、ご本人や、ご家族が困っていることからお話を伺い、必要とされていることを見極めるようにしている。又、入居前に利用されていたサービスの事業所からも情報収集を行っており、可能な部分はケアに反映できるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>法人内のHLC制度を活用し、ご本人がしたいことを実現できるように支援をしている。一緒にお菓子作りをしたり、洗濯物をたたんだり、掃除等を行い、ご利用者ができることを一緒に行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>感染状況にもよるが窓越しや距離をとった対面での面会を行えるようにしている。普段の様子を面会時にお伝えしたり、写真と共に毎月の様子を綴った手紙をお送りしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族の意向により面会の制限があるケースもあるが、友人の方の面会もお受けしており、ご家族の方はもちろん、馴染の方もすぐに入居できる環境にある。平時であれば外泊や一時外出も可能。</p>	<p>外部とのふれあいが持てない現状で、少しでも関りが持てるように、ライフストーリーシートを活用し、家族や友人との面会や年賀状、手紙の投函など旧知の関係を継続している。事業所の車両を使用し、本人の誕生日には、近くの公園など行くことで馴染みの人と出会う機会を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入って馴染みの関係の構築とその維持をできるよう支援に努めている。レクリエーションやアクティビティの際にも席を移動してご利用者全員が交流する場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居された方のご家族とも1～2年程度は年賀状のやり取りがある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者一人ひとりにライフストーリーシート（生活歴をまとめたもの）を作成し、思いや暮らし方の希望、意向を把握しそれが実現できるよう努めている。	ライフストーリーシートを作成し、思いや意向の把握に努めている。ケア記録に時間を要していた経緯から令和4年2月から電子化に取り組み、ペーパーレスや記録の効率化を図る事で利用者の支援の充実を図る取り組みをしている。日常会話から得られた思いや意向は、ケア記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	上記同様、ライフストーリーシートの作成により、生活歴の把握をし、ケアに繋げていけるようにしており、定期的に書式の更新と、アセスメントの見直しを行い、ご本人の小さな変化も見逃さないよう観察、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送りや、毎月のモニタリング等を通して、現状の把握に努めている。各担当者が主となり、アセスメントの見直しを行い、適切なケアを提供できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のモニタリングや、介護手順書の更新により、現状を把握している。状態の変化を見逃さず、担当の職員を主とし原案を考え、定期的な会議を通じてケアプランの作成を行っている。</p>	<p>担当職員がアセスメントを行い、利用者・家族の意向『本人が何をしたいのか、家族は何を望むのか』を踏まえ、計画作成者が介護計画原案を作成している。例えば『なるべく口から食べたい』意向があれば、本人に合った、すくいやすい食器やスプーンなど選定し、食事をしやすくする工夫をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアの記録はアプリ上での入力となっている。キーワードで検索ができるので後から情報を見直す時に重宝している。ケアプランの内容にあるサービスを提供した際は「ケアプラン」のタグをつけている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご利用者の日々の状態により、ご本人のニーズが実現可能ならできるだけ早期に対応するようにしている。日々の業務内容については実施時間の変更をする等、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>平時であれば地域の祭りへの参加や、保育所との交流又、ボランティアの受け入れも行っている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴いここ数年はそうした活動を行っていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体の下山記念クリニックと連携を取っている。定期的な訪問診療を受けることができ、訪問看護とも連携を行っている。必要があれば、クリニックに受診をしている。</p>	<p>利用開始時に相談し、殆どの利用者が事業所の法人クリニックがかかりつけ医である。訪問看護や月2回の訪問診療と緊急時の対応等24時間連携体制を図っている。医療情報については、メールなど活用することで迅速に対応できるシステムが構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護師に訪問診療時を含め、最低週1回訪問頂いており、ご利用者の変わったこと、困ったことに関して相談している。又、状況によって都度電話にて相談を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は職員が付き添い、細かい情報交換を行っている。入院中も医療連携室のソーシャルワーカーを通して現状の把握や、退院後のケアについて病院関係者やご家族と連絡をとるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師、ご家族、職員でカンファレンスを開き、ご家族へ説明や、情報の共有、今後の方針等を話し合い、ご本人に合わせた苦痛の少ない、本人らしい生活が最後までできるように支援している。適宜のカンファレンスにて職員同士も話し合い、その時々によって柔軟な対応ができるよう心がけている。</p>	<p>看取りの経験もあり、最期までその人らしく過ごせるようにチームアプローチで取り組んでいる。重度化した場合、その都度家族や医療関係者と方向性をよく話し合い今後の方針を決めている。例えば、入浴が好きな方はなるべく最後まで入浴ができるように体制づくりに努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応について具体的な対応の指導を定期的に行っている。又、医療職に指導を頂くこともある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的に消防訓練を行い、災害時の対応を学ぶようにしている。地域の代表者や近隣住民にいざという時に協力をお願いできる体制をとっている。</p>	<p>ハザードマップ上では危険区域で無いため、地震から火災に至った想定での訓練をしている。コンセント周りの点検や災害時に備えて浴槽内に水を貯めるなど対応を取っている。3日分の備蓄品や『我が家は無事です』と分かるプラカードを活用し、町内会との協力体制も築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者一人ひとりの尊厳を第一とし、信頼関係を深められるよう努めている。誇りを損ねないよう、名字でお呼びし、言葉遣いに留意している。各居室等の入室時にはノック、声掛けを基本とし、入室するよう心がけている。個人情報保護についても留意し、情報があるものに関してはロッカー等、人目につかないところに保管している。	年間研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。少人数でもあり、利用者と職員との距離感が近いこと、特に日頃の言葉遣いには十分気を付けた対応をしている。日頃の言葉遣い、マナー向上を図る目的で適宜、言葉遣いについての注意喚起をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各ご利用者の担当が主となり馴染みの関係を持ち、ご本人からの思いを聞き出せるよう努めている。意思表示が難しい方もいらっしゃる中で、担当者をはじめとした職員が気づき、一早く意思をくみ取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者一人ひとりに対し、排泄時間の間隔を把握し、声かけ、誘導を行っている。支援もその方のペースに合わせた対応ができるよう努めている。ご利用者の体調、状態、意志等により食事の時間等を変更する場合もあるが、できるだけ共同生活を送って頂き、ご利用者同士の関係づくりの為、可能な限り、一緒に食事や、レクにも参加頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自宅から持参頂いた衣類の中からご本人にあった衣類を着用して頂いている。又、2か月に1回は、訪問美容を依頼しており、定期的に訪問して頂くようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が難しい方は少しでも召し上がって頂けるよう好みの物を提供する等、皆と同じ物にこだわり過ぎないようにしている。又、後片付けをご利用者と一緒に行うこともある。	利用者は後片付けでお盆拭きなど出来る事をしている。食事は3食配食業者を利用している。利用者の状態に応じて栄養補助食品、食事形態を変えるなど柔軟な対応をしている。時には鍋料理、焼き芋、カフェ、外にテーブルを準備し、食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の配達業者から栄養面に関して配慮頂いている。栄養が足りない方は追加で補助食品を提供している。食事量、水分量共に、十分量を摂取できるよう記録にも留意しており、午前と午後で職員が把握できるよう摂取量をまとめ、状況を確認できるようにしている。またその方の好きな物や、飲み物も提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、洗面台に誘導し、口腔ケアを行っている。ご本人にできないところは職員がお手伝いをさせて頂いている。又、かかりつけ医とも連携を行い、歯科衛生士による定期的な口腔ケアと一人ひとりにあった支援を行い、口腔内の衛生を保てるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失敗なくトイレで排泄して頂けるよう、排泄パターンを把握し、誘導を行っている。オムツの使用を減らす為、基本的に日中はトイレでの排泄を支援させて頂いている。	『生活づくり10カ条』にある、『まず座る』トイレに座る、本人の状態像に合わせた排泄の自立支援を行っている。トイレには無理なく排泄出来るよう前傾姿勢が保持出来るテーブルを設置している。オリーブオイル、オリゴ糖を活用することで自然排便を促す支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫や、レクリエーションでの腹圧がかかる運動、マッサージを取り入れ、できるだけ薬に頼らない排泄を支援している。排泄が難しい方等には、医療職に相談をし、一人ひとりにあった対応をしている。水分量にも配慮をし、便秘の原因にならないよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴を基本としており、ご利用者の体調や、外出、外泊等の日時にも配慮を行い、定期的に入浴して頂けるよう努めている。入浴方法もご利用者一人ひとりにあった支援を行っている。入浴が難しい場合は清拭を行っている。	基本週2～3回であるが、利用者の体調や外出など柔軟に対応している。冬場は脱衣室と浴室との温度差がないよう温度管理をしている。希望があれば本人が好むシャンプー、化粧水、乳液など使用できる。入浴時には皮膚トラブルが無いか確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者が安心して眠れる環境作りとして在宅時のレイアウトを模して家具を配置している。寂しさから夜間個室で落ち着くことができない方は場合によってリビングのソファで休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの説明や、薬剤師からの意見、処方箋を通じて情報を収集し、服薬に伴う変化に気をつけている。異変は看護師とも情報交換をし、適切な支援に繋がるよう努めている。薬を処方頂く際、注意する点や、不明な点は再度薬剤師に確認をとるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ライフストーリーシートでの生活歴を定期的に見直し、ご利用者の状態に合った役割や、楽しみごとを実践できるよう、ご家族に頂いた情報を活かして判断をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご利用者のその日の体調にも配慮し、職員が付き添い、外気浴を含め、散歩や買い物にも出かけている。ご家族の要望も取り入れ、定期的に外出をして頂くよう努めている。感染症予防の為、密にならない場所や時間帯を選んでいる。	事業所前での日光浴、屋外での事業所夏祭りのイベント、外出自粛の中でも紅葉狩りなどドライブを行い、外気浴、季節を感じる取り組みをしている。外出計画はあえて決めていないが、本人の誕生日には自宅へ立ち寄りなどして馴染みの場所へ出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本にご本人持ちの金銭の管理は行っていない。立替でご本人がお使いになれる物を職員が買い物を行い、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族、友人の方からお電話を頂いて話をされることがある。最近は通話アプリでのオンライン面会も対応している。手紙を書きたいという希望がある場合は、職員が代筆をし、ご家族へお渡しをする場合もある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングはシンプルに、且つ季節や、行事に合った飾り付けを行い、雰囲気を楽しんで頂けるよう環境作りに努めている。周りも自然に囲まれており、穏やかに過ごして頂ける環境である。リビングから見える花壇には季節にあった花を植えており、リビング内からでも見て楽しんで頂いている。</p>	<p>共有スペースは明るく、窓が大きく目の前には花壇が見られる空間がある。季節の飾り付けや、掃除、温度、湿度、換気など配慮している。下腿長などを測定し、机や椅子の高さなど利用者に配慮しながら空間づくりをしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ご利用者一人ひとりにあったテーブル、イス、座席の位置に配慮している。又、空いた時間にはソファでゆっくり過ごして頂き、テレビも見て頂けるよう居場所の確保を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご自宅で使われていた馴染みのある家具を持参頂き、少しでもご自宅での暮らしに近づけるよう努めており、ご家族との写真も壁に貼り、安心して過ごして頂けるよう工夫をしている。</p>	<p>ライフストリーシートを活用し、居室は自宅の住居環境に近い部屋になるように、使い慣れた品物、家族の写真など生活習慣にも配慮し、安心して過ごせるよう工夫している。馴染みの物を自由に持ち込み少しでも早く慣れるよう安心して過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ご本人ができることを最大限に活かし、一人ひとりにあった介助を統一して行えるようアセスメントを行ったうえで、その状態にあった援助方法を行っている。ご利用者が使いづらい物に関して検討をしたり、メンテナンスをしている。又、扉にトイレ等の表示をし、ご利用者にも分かりやすいよう工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい八本松

作成日 令和5年3月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	新人職員に対して業務を教えることのできる人材の不足。(私は分からない、誰かがやってくれるから私には関係ない)	新人職員に対して複数の職員が根拠を持って共通した方法をレクチャーすることができる。	現在もマニュアルはあるが各々の確認が不十分で自己流になっている部分があるため再度整理と周知を行う。	6か月以内
2	39	衣服は数着あるが洗濯が終わった服をそのまま翌日着ていただいたり、着脱のしやすい物を着ていただいたりと特定の組み合わせになりがち。	せっかくきれいな服が何着もあるのでおしゃれを楽しんで頂きたい。	各利用者の担当職員でタンス内の衣類整理を行い衣服を取り出したり、選んだりしやすいようにする。	2か月以内
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。